

平成 26 年度トピックス

①世界自閉症啓発デー2014

平成 19 年 12 月の国連総会において、毎年 4 月 2 日を「世界自閉症啓発デー」とし、世界各国で政府や NPO 等が協力して自閉症の理解啓発を進めることが決議されました。このことに対応するため、我が国においては、「世界自閉症啓発デー・日本実行委員会」が組織され、NISE は共催機関としてこの実行委員会に参加して、自閉症の啓発活動の一翼を担っています。また、毎年 4 月 2 日～8 日を「発達障害啓発週間」とし、各地で発達障害についての理解啓発を進めるよう働きかけています。

今年度の啓発イベントとして、平成 26 年 3 月 29 日、灘尾ホール（東京都千代田区霞が関）において、

「世界自閉症啓発デー2014・シンポジウム」を開催しました。今年度のテーマは、「共に支え合うーみんなで作ろう、やさしい街をー」でした。当日は約 360 名が参加しました。

午前中のシンポジウム 1 では、「暮らしやすい街づくり」と題して、北海道芽室町、千葉県柏市、兵庫県明石市の各首長から報告がありました。午後のシンポジウム 2 では、「私たちの街では」と題して、地域での取組について、3 組の支援者から報告がありました。

また、4 月 2 日、東京タワーのブルーライトアップを実施しました。ブルーライトアップは、日本全国で、さらに海外でも行われています。

○世界自閉症啓発デー公式サイト→

<http://www.worldautismawarenessday.jp/>



写真 1 シンポジウム開会式



写真 2 シンポジウム会場風景

②平成 26 年度就学相談・支援担当者研究協議会

平成 26 年 7 月 17 日～18 日、「就学相談・支援担当者研究協議会」を、文部科学省の協力を得て開催しました。

この研究協議会は、各都道府県等において就学相談・支援に関わる業務に関して指導的立場にある者による研究協議等を通じ、各都道府県等における担当者の専門性の向上及び就学相談・支援の充実を図ることを目的として、昨年度から開催しているものです。2 回目の開催となる今年度は、全国から 69 名の指導主事等が参加しました。

1 日目は、文部科学省による「特別支援教育の現状と課題」と題した行政説明、続いて、「インクルーシブ教育システム構築関連データベースの活用」と題した講義を行いました。

2 日目は、「一人一人の教育的ニーズに応じた適切な学びの場を提供するための教育相談・就学先決定の在り方」というテーマで、宮崎県とさいたま市での取組について話題提供を行いました。続いて、都

道府県分科会と指定都市分科会に分かれて、各地域における就学相談・支援の取組について班別協議を行いました。

③平成 26 年度発達障害教育指導者研究協議会

平成 26 年 7 月 31 日～8 月 1 日、「発達障害教育指導者研究協議会」を、文部科学省の協力を得て開催しました。

この研究協議会は、各都道府県等において発達障害のある幼児児童生徒に対する指導・支援に関して指導的立場にある者による研究協議等を通じ、専門的知識及び技能を高め、各地方公共団体による指導・支援の充実に資することを目的として、毎年度開催しているものです。今年度は、全国から 128 名の教職員が参加しました。

1 日目は、文部科学省による「発達障害教育に関する動向」と題した行政説明、続いて、「インクルーシブ教育システムにおける『合理的配慮』と関連データベースについて」と題した NISE の事業説明、さらに、『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』の補足調査について」と題した NISE の調査報告を行いました。

2 日目は、二つの分科会に分かれて話題提供とグループ協議を行いました。第一分科会のテーマは、「幼稚園等から小学校への支援のつながり」、第二分科会のテーマは、「中学校から高等学校、卒業後への支援のつながり」というものでした。



写真 3 開会式

④平成 26 年度特別支援教育教材・支援機器等の活用のための研究協議会

平成 26 年 8 月 18 日～19 日、「特別支援教育教材・支援機器等の活用のための研究協議会」を、文部科学省の協力を得て開催しました。

NISE では、平成 26 年度新規事業として、「支援機器等教材普及促進事業」に取り組んでいます。この研究協議会も、普及活動の一環として、各都道府県等において障害のある幼児児童生徒のための教育支援機器等活用に関して指導的立場にある者による研究協議等を通じ、各都道府県等における担当者の専門的知識を深め、指導の充実に資することを目的に開催したものです。初めての開催となる今年度は、全国から 55 名の教職員が参加しました。

1 日目は、文部科学省による「特別支援教育の推進と教材・支援機器等の活用」と題した行政説明、続いて、兵庫教育大学の小川修史講師によるワークショップを行いました。

2 日目の午前中は、東京大学の中邑賢龍教授が特別講演を行った後、1 日目に引き続き、小川講師によるワークショップを行いました。午後は、参加者によるポスターセッションを行いました。



写真 4 参加者によるポスターセッション

⑤「インクル DB」本格稼働—合理的配慮の実践事例データベース—

NISE では、「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクル DB）」を公開していますが、平成 26 年 7 月、インクル DB の中に『合理的配

慮』実践事例データベース」を開設しました。平成27年1月末段階で84事例を公開しており、今後も継続的に事例数を増やしていく予定です。

『合理的配慮』実践事例データベース」は、平成24年7月に中央教育審議会初等中等教育分科会が報告した「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で示された、8項目の「基礎的環境整備」と3観点11項目の「合理的配慮」についての取組をまとめたデータベースです。多様な学習の場がある教育現場で、新しい概念である合理的配慮を具現化するときに、「実際はどのようなことを行っているのだろうか」という疑問を解決するために、実践事例を参考にさせていただけたらと考えています。

○インクル DB→

<http://inclusive.nise.go.jp/>



図1 インクル DB

⑥平成26年度研究所(NISE)公開

平成26年11月8日、平成26年度「研究所(NISE)公開」を開催し、教員、保育士、大学生、保護者、地域の方など315名が参加しました。

今年度は、「子どもとともに」をテーマに、NISEの最新の研究成果や取組をわかりやすく紹介すると

ともに、様々な障害の疑似体験、教材・教具や教育支援機器の実演、障害のある子どもに対する配慮や支援の工夫の紹介、発達障害の特性に関するミニ講義など、幅広い内容の催しを行いました。

また、今年度の新企画として、「いんくるカフェ」を開催しました。いんくるカフェには、大学生を中心に29名が参加し、NISEの宍戸和成理事長、新谷喜之理事や研究職員と一緒にランチをとりながら、特別支援教育に関する疑問や理想の教員像などについて語り合いました。参加者からは、「普段接する機会のないNISEのスタッフに気軽に質問したり、教員を目指す他大学の学生と情報交換を行ったりすることができ、とても楽しく有意義な時間だった。」といった声が聞かれました。



写真5 発達障害の特性に関するミニ講義



写真6 いんくるカフェ

⑦モニュメント『子どもとともに』の設置

平成26年11月8日、モニュメント『子どもとともに』の除幕式を行いました。

このモニュメントは、我が国が「障害者の権利に関する条約」を批准した 2014 年を記念して、NISE のロゴマークを基にデザインした石碑を設置したものです。

碑文には次のような説明があります。

『子どもとともに』

我々は、「障害者の権利に関する条約」の批准がなされた 2014 年を記念し、

○過去には感謝を

障害児教育の先達、子どもたちの教育に関わったすべての人たちに感謝し

○現在には信頼を

特別支援教育の充実・発展に取り組んでいるすべての人たちに信頼し

○未来には希望を

すべての子どもたちが充実感を持ち共に学ぶことのできる教育を実現するという希望を持って

インクルーシブ教育システムの構築に向けて尽力することを誓い、

すべての子どもたちの幸せを願って、

ここに 『子どもとともに』 の碑を置く。

平成 26 年 11 月 8 日

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

『子どもとともに』というモニュメントの名称は、NISEの初代所長である故辻村泰男先生の「これだけはこれからも、そしていつまでも、戒めて欲しいと思うことは、教育に関する議論は、子ども不在の水準で行われてはならないということである。」(出典：辻村泰男著「障害児教育の新動向」という言葉にちなんでつけられました。

インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育が大きな政策課題になっている今日、このモニュメントが、何よりも子ども達のために尽力するすべての関係者の心の拠り所となることを期待しています。



写真7 除幕式



写真8 モニュメント『子どもとともに』

⑧平成 26 年度交流及び共同学習推進指導者研究協議会

平成 26 年 11 月 20 日～21 日、「交流及び共同学習推進指導者研究協議会」を、文部科学省の協力を得て開催しました。

この研究協議会は、各都道府県等において障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習を推進する立場にある者による研究協議等を通じ、各地域における交流及び共同学習と障害の理解推進に資することを目的として、毎年度開催しているものです。今年度は、全国から 75 名の教職員が参加しました。

1 日目は、文部科学省による「交流及び共同学習をめぐる現状と課題」と題した行政説明、続いて、「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクル DB）について」と題した NISE の事業説明を行った後、「交流及び共同学習を計画的・組織的に進めるために」というテーマで、愛媛県と岩手県での実践事例について話題提供を行いました。

2日目は、三つの分科会に分かれて研究協議を行いました。第一分科会のテーマは、「交流及び共同学習を推進する上での学習活動の工夫」、第二分科会のテーマは、「居住地における児童生徒の交流及び共同学習の推進」、第三分科会のテーマは、「交流及び共同学習を推進する上での行政的取り組み」というものでした。

⑨世界自閉症啓発デー2014 in 横須賀

平成26年12月6日、横須賀市総合福祉会館において、今年度で5回目となる「世界自閉症啓発デー2014 in 横須賀」を、筑波大学附属久里浜特別支援学校との共催で開催しました。

国連が「世界自閉症啓発デー」と定めたのは毎年4月2日ですが、この「世界自閉症啓発デー in 横須賀」は、障害者週間（毎年12月3日～12月9日）にあたり横須賀市が実施している「障害者週間キャンペーン YOKOSUKA」関連行事の一つとして、横須賀市及び横須賀市教育委員会の後援を受けて開催しているものです。

今年度は、「自閉症の世界を知ろうよ～ちいさなつながりをひろげよう～」をテーマとして、①映画「星の国から孫ふたり」の上映、②映画のシーンに見られる自閉症の特徴の理解と支援の方法についてのミニ講義、③当事者からのメッセージというプログラムで行いました。また、会場の壁一面に、筑波大学附属久里浜特別支援学校の幼児児童による作品を展示しました。

当日は、小さなお子さん連れのお母さんからご年配の方まで、スタッフを含め約160名が参加しました。参加者は、最後のプログラムまで熱心に耳を傾けていました。

また、横須賀市立横須賀総合高校の3年生5名がボランティアとして参加し、会場内の案内・誘導に活躍しました。

○NISE「世界自閉症啓発デー」特設サイト→

<http://www.nise.go.jp/waad/>



写真9 会場風景



写真10 筑波大学附属久里浜特別支援学校の幼児児童による作品展示

⑩特別支援教育教材・支援機器等展示会

平成26年12月6日と7日の2日間、国立京都国際会館において、「特別支援教育教材・支援機器等展示会」を開催しました。

NISEでは、今年度の新規事業として「支援機器等教材普及促進事業」に取り組んでおり、本展示会も、普及活動の一環として、教員が実際に活用している教材・支援機器やその活用事例を広く紹介するために開催したものです。

本展示会には、事前登録された223名のうち延べ166名が参加し、さらに95名の当日参加がありました。また、同時開催された「ATACカンファレンス」に約1,200名が参加しており、その中からも多くの方が参加しました。これらに加えて、ご後援いただいた京都市には事前に200名分の参加証を送付し、こちらからも多数の参加をいただくことができました。京都市からは、市長や教育長も見学に来られました。

会場内の展示ブースでは、教員が実際に活用している教材・支援機器やその活用事例について、教員自らデモンストレーションを行いながら、参加者に説明しました。12名の先生方にご協力いただきましたが、どの展示ブースも、実際の教材・支援機器を見ながら、あるいは触れながら活発な意見交換が行われ、終日盛況でした。



写真11 会場風景



写真12 京都市長もデモンストレーションを体験

⑪平成26年度辻村賞授賞式・記念講演会

「辻村賞」は、NISEの初代所長であるとともに、我が国における特別支援教育の第一人者として、その振興、発展のために尽力された故辻村泰男先生のご遺徳を永く記念するため、特別支援教育の領域において特に顕著な功績のあった方や、特に優秀な研究を行った方に対し、授与するものです。

平成26年度「辻村賞」は、11月に開催した選考委員会において、長澤泰子氏（植草学園大学非常勤講師）の受賞が決定され、平成26年12月17日、授賞式及び記念講演会を開催しました。

記念講演会では、「言語障害教育を語る」と題したご講演をいただき、NISEの所員にとって大変貴重な学習機会となりました。



写真13 受賞者の長澤泰子氏を囲んでの記念写真